

国際自然保護連合日本委員会 2020 年度事業報告書

(2020 年 4 月 1 日-2021 年 3 月 31 日)

2021.6.19 会員総会承認

2020 年度事業のハイライト

新型コロナ感染拡大により、国際会議の延期や中止に見舞われ、国際会議と連動してポスト 2020 時代に備えようとした IUCN-J の取組の多くも変更や延期となる難しい 1 年でしたが、次につながる成果を、会員団体協働で作り上げることができました。

主要成果 1 オンライン化への移行と会員間情報共有の充実

IUCN 会員の中でも、一早く Zoom を用いたオンラインセミナーや、オンライン会議、ズームウェビナーに着手し、その試行を会員と共有しました。また、オンライン化する生物多様性条約関連会合や IUCN 関連会合（WCC 関連電子投票）などについて、事前協議の場づくりや参画方法のレクチャーなど IUCN 会員の支援を行いました。日本の会員が発案や支援をした重要な決議も採択されました。この取組を通じ、セミナーに全国の方が参加できるようになるなど、広報発信力の向上にもつながりました。

主要成果 2 生物多様性ユースアンバサダー2020 の活躍と、COND の発展

世界とつながりながら、未来を考え行動するユースを育成する事業として、「生物多様性ユースアンバサダー2020」が展開されました。コロナ禍での活動は、ユースにとっても困難なものでしたが、COND 事務局によるサポートもあり、1 年間の活動を終え、報告書をまとめました。

ユースアンバサダー2020 の中には活動の継続や、COND 内の専門チームに加わるものも多く、アクティブなユース団体の発展に IUCN-J として寄与することができました。事業見込みの低下した予算を COND 事務局支援に割くなど、資金的な支援も強化しました。

主要成果 3 にじゅうまるプロジェクト後継事業の検討の積み重ね

IUCN プログラムの勉強会や、Nature-based Solutions の学習、CEPA、生物多様性国家戦略など数多くの題材について世界の動きを学ぶとともに、意見交換を通じて理解を深めるプロセスを作りました。また、国際会議・レポートの概要共有（PPT 形式）などに力を入れました。

これらの最新の国内外の知見をベースとして、にじゅうまるプロジェクトをより良い形で引き継ぐ方法について、意見交換を積み重ねました。

事業に関する報告

1. IUCN のビジョン・ミッションに共感する団体・個人の増加

1.1. IUCN-J サポーター制度の見直し

会員会合や IUCN—WCC に向けた準備会合等の様座な機会を通じて通じて、にじゅうまるプロジェクトの後継組織のありかたや、IUCN-J サポーター制度の検討を行いました。引き続き、IUCN-J 事務局運営の在り方含めて検討が必要です。

また、IUCN 専門委員会委員との連携については、専門委員会のガバナンスの中に、国内フォーカルポイントが定められることになり、2021 年 9 月の IUCN 世界自然保護会議 2020 (IUCN-WCC) 以降、制度の状況を眺めながら、連携の在り方を検討します。

1.2. ユースの育成

生物多様性ユースアンバサダー事業を展開しました。前年度にあたるの 2020 年 1 月に、生物多様性ユースアンバサダーを 30 名指名し、10 チームにわけて活動。ユースアンバサダー向けオンラインでの勉強会の開催やニュースレターの発行を実施しました。

ユースアンバサダーとの意見交換を 8 月に引き続き 2 月末にも実施（最終報告会）。

チームの支援を COND 事務局が実施しました。

一連の活動の中で、政策提言チームやコミュニケーションチームなども、有志メンバーで発足。小泉大臣との意見交換会への参加や東京都の方との意見交換が行われるなど、代表的なユース団体としての認識が広がっています。

政策提言チームのメンバーは、生物多様性国家戦略に関する環境省と NGO の意見交換会にも参加するのみならず、テーマ取りまとめなどにも力を発揮しています。

成果としては、

- ・ 2020 年 6 月ユースアンバサダー事業が WinWinSustainabilityYouthAward2020 にノミネート (80 ヶ国 358 団体中の 20 団体)

- ・ 10 年間の振り返り・次の 10 年の検討（せいかりレー）は、2020 年 12 月 31 日までの活動内容を取りまとめ、最終報告用の活動報告冊子の発行

<https://condx.jp/bd-youth-ambassador-report/>

等があります。

ユースアンバサダーの任命任期は現状 COP15 の翌月までと延長しました。COP15 の次の月まで継続する任期では、2020 年 1～12 月の成果発信を主としていきます。

その一環として、2021年2月5-6日に愛知県主催の生物多様性とSDGsユース会議にて発表と運営を担いました。

引き続き、2021年以降の事業への活かし方について、具体的な検討が必要です。

派生したチームの活動としては下記があります。

<国際連携>

- ・7月に起きたモーリシャス原油流出事故への支援をきっかけとした、モーリシャスユースと協働開始。2月にオンラインにてキックオフイベントを開催
- ・IUCN-WCCでのGlobal Youth Summitが4月5日～4月16日に完全オンラインで開催。
 - CONDとWWF中国との協働チームで4月7日・8日の2日に分け、トラックを実施。

<政策提言チーム>

- ・NBSAPに関する環境省とNGO意見交換会への参加・提言の継続
- ・次期生物多様性国家戦略を考えるフォーラムの分科会を主催(3/18)
- ・CBD関連の動きについては、GYBN主催のオンライン政策トレーニングに参加。
- ・SBSTTA24/SBI3インフォーマルセッションにも参加。日本ユースの意見をまとめるための国別コンサルテーションを2021年4月に実施。

1.3. おりがみアクションの実施

本事業については、おりがみワークショップ手法を紹介する冊子を製作し、事業の取りまとめ方策を考えていきます。

1.4. 発信の強化・組織基盤の強化

IUCN-Jの会員拡大については、リアルコンサベーションが準会員に加盟しました。また、準会員制度の再検討を実施しました。

ウェブサイト(www.iucn.jp)については、JoomlaというCMSで作成してきましたが、システムが古いこともあり、にじゅうまるプロジェクト後継枠組みと共に、再検討し、WordpressというCMSで統一するなど、ウェブサイトのリニューアルについて検討やサイトマップの整理を実施しました。

IUCN親善大使イルカさんのコンサートについては、2020年は中止となりました。

2. 会員間および海外・他セクターとの交わりの場（プラットフォーム）の創出・増加

2.1. にじゅうまるプロジェクトのまとめと後継検討

2011年より展開した、にじゅうまるプロジェクトの後継について検討するため、IUCN-J内勉強会（2.2）とも連動する形で、勉強会を通じて、方向性を検討しました。

例えば、8月20日にIUCNプログラム2021-2024を勉強する会を開催。複数テーマに関する勉強会を今後計画していくことし、CEPAに関する勉強会を実施しました。（その他のテーマ（KBA・保護地域、ワンヘルスアプローチと福祉、国際条約）については、未実施となりました。

3.2.2. 会員間での報告会や意見交換会の実施

IUCN会長候補との意見交換、経済関係事業のIUCN事務局担当（USオフィス）との情報交換、生物多様性条約事務局との意見交換などを実施しました。

また、2020年6月5日、9月3日、10月21日、12月14日、2月24日に、国家戦略に関するNGOと環境省との意見交換会の開催と、その調整のための会合を実施しました。会合の成果物である次期生物多様性国家戦略に関する論点は、環境省研究会の参考資料として活用されました。

生物多様性センターウェブサイト：次期生物多様性国家戦略の策定に向けて

<https://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/initiatives5/index.html>

生物多様性国家戦略の検討を見据えながら、次期生物多様性国家戦略を考えるフォーラムを開催しました。全体会2回、分科会5テーマで構成する会合で、1セッション100名以上の参加があり、800名の登録（実人数）がありました。

各分科会からは、提言がまとめられ、次期生物多様性国家戦略研究会で紹介されました。

次期生物多様性国家戦略を考えるフォーラム自然共生社会の設計図作りに参加しよう分科会からの提言

http://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/initiatives5/files/8_9-7_teigen_forum.pdf

各セッションの開催日とテーマは下記のとおりです。

3月11日（木）17:30-19:30 全体会「次期生物多様性国家戦略の現状」

3月12日(金) 13:00-15:30 分科会①「経済・社会活動を支える #自然資本～ビジネスがまもる地球の未来～」 主催：コンサベーション・インターナショナル・ジャパン(CIジャパン)

3月18日(木) 10:00-12:30 分科会②「自然に配慮したライフスタイルへの転換」
主催：Change Our Next Decade(COND)

3月22日(月) 17:00-19:30 分科会③「2030年 「生きもの賑う農業」が主流化！」
主催：ラムサール・ネットワーク日本(ラムネットJ)

3月26日(金) 14:00-16:00 分科会④「Nature For All ～すべての人に自然を～」
主催：日本自然保護協会(NACS-J)

3月31日(水) 19:00-21:30 分科会⑤「生態系が豊かに安定してゆくインフラへ ー土中環境の重要性ー」 主催：国連生物多様性の10年市民ネットワーク(UNDB市民ネット)

4月6日(火) 17:00-19:00 全体会「自然共生社会の設計図作りに参加しよう」

3.2.3. アジアや日中韓 IUCN 会員との連携を構築する。

IUCN-WCC や、アジア地域委員会の機会を使って、ポスト2020ワークショップをベースに日中韓で、類似のワークショップを実施する方法を模索していましたが、国際会議の延期に伴い、再検討を行いました。

堀江正彦 IUCN 理事の協力の元、韓国のユン氏(理事(東南アジア)候補)と、WCC 期間中での意見交換を提案。日中韓との連携について、引き続き課題とします。

また、アジア地域委員会が、2020年7月29日、2021年3月26日に開催され、出席しました。各会合共に、書面で意見を取りまとめました。

3.2.4. 国立環境研究所との協働

国立環境研究所との覚書を活かし、ポスト2020枠組みの検討も含めた、研究分野とNGOとをつなぐ取組を実施する必要があり、引き続き検討を続けます。

3. 生物多様性に関する国際枠組みや、生物多様性を超えた持続可能な開発に関する国際枠組みなどに対し、IUCN-J 会員からの関与を高める

3.1. 国際会議などへの参加を通じた、国際的情報収集・情報発信の実施

生物多様性条約関連会合、IUCN 世界自然保護会議は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、延期を繰り返したことから、多くの事業を 2021 年度に持ち越すこととなりました。

一方、オンラインでのイベント開催なども相次ぎ、CBD-SBSTTA24/SBI3 やポスト 2020 枠組みに関する非公式オンラインイベントなども開催されました。

生物多様性条約関連会合（SBSTTA/SBI バーチャルセッション（9 月）、ワンヘルス特別セッション（12 月）、SBSTTA/SBI-Informatl Session（2 月—3 月）については、IUCN-J 名義での会員の参加支援も行い、延べ 10 名以上の国際会議参加を行いました。

地球規模生物多様性概況第 5 版解説イベント（UNDB 市民ネットワーク主催）、ワンヘルス特別セッション（12 月）、One Planet Summit（1 月）などの主要なイベント発表についての把握情報共有などを行いました。

IUCN 世界自然保護会議には、日本の IUCN 会員団体が、主提案者や共同提案者となってまとめ上げたモーション（勧告）がオンライン投票にて成立しました。

< 勧告一覧 >

WCC-2020-Res-017-EN Protection of natural flows of water for the conservation of wetlands

<https://www.iucncongress2020.org/motion/019>

WCC-2020-Rec-029-EN For the urgent global management of marine and coastal sand resources

<https://www.iucncongress2020.org/motion/033>

計画していた国際会議参加支援の仕組みは、国際会議のオンライン化に伴い、計画通りには実施できなかったものの、ユースも含め、生物多様性条約を学ぶ連続ミニ講座（フライデー・ハッピー・アワー・フォー・バイオダイバーシティ）を 7/17、7/31、8/7 に試行を行いました。講座実施から、プレゼンの資料化、講義動画を公開する一連の流れや、双方向性を取り入れたレクチャーの工夫は今後も続きます。

3.3.2. 生物多様性条約事務局との MoU(2011.12 月署名)を通じた国際情報発信の実施

生物多様性条約関連会合の延期に合わせて、CBD-COP15 における UNDB-DAY の開催支援なども、延期されることになりました。

3.3.3. ポスト 2020 を受けた市民戦略作り

生物多様性条約関連会合の延期に合わせて、本事業も 2021 年度に延期することになりましたが、ポスト 2020 枠組み交渉や、関連する国際情報の収集と共有などは、継続的に行いました。

4. 謝辞

2020 年度の事業の運営に当たり、下記企業からのご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

- ・良品計画株式会社
- ・コーヒーズプロジェクト
- ・株式会社ワコール
- ・株式会社シール堂
- ・ブラザー工業株式会社

団体としての記録

1. 加盟団体

2021年3月31日段階で、国際自然保護連合(IUCN)に加盟している日本の団体は、国家会員1(外務省)、政府機関会員1(環境省)、非政府組織15の計17団体となる。IUCN日本委員会(IUCN-J)加盟団体においては、本部がIUCN加盟団体となっている2団体・準会員3団体を合計し、計22団体となる。

2020年に、リアルコンサベーションが新たに準会員で加盟を行った。

2. 会議開催

IUCN-Jの会員団体・協力団体を中心に行った会合は下記の通り。

- 4月17日 IUCN-J 役員会
- 4月21日 NGOグループ・NBSAP 意見交換会合①
- 4月23日 環境省との意見交換会①
- 5月15日 NGOグループコア・NBSAP 意見交換会合②(ポストコロナ)
- 5月22日 IUCN-J 総会
- 6月5日 環境省との意見交換会②(ポストコロナ)
- 6月23日 IUCN-J 役員会
- 6月26日 IUCN 会長候補との意見交換会(ラザン・アル・ムバラク候補)
- 6月30日 IUCN 会長候補との意見交換会(ジョン・ロビンソン候補)
- 7月1日 IUCN-J 役員会
- 7月17日 Fridays Happy Hour for Biodiversity(ユース向け CBD 勉強会)①
- 7月20日 NGOグループ・NBSAP 意見交換会合③
- 7月31日 Fridays Happy Hour for Biodiversity(ユース向け CBD 勉強会)②
- 8月3日 生物多様性ユースアンバサダー×IUCN-J 意見交換会①
- 8月4日 NGOグループ・NBSAP 意見交換会合④
- 8月7日 生物多様性ユースアンバサダー×IUCN-J 意見交換会①
- 8月7日 Fridays Happy Hour for Biodiversity(ユース向け CBD 勉強会)③
- 8月20日 IUCN プログラム 2021-2024 の勉強会
- 8月20日 IUCN-J 臨時役員会
- 9月3日 環境省との意見交換会⑤
- 9月4日 IUCN-J 運営委員会

- 10月9日 IUCN-WCC オンライン投票に関する意見交換会
- 10月9日 生物多様性条約 ポスト愛知目標はどうやって決まる!? (GBO5 解説)
- 10月30日 CBD 事務局との意見交換会
- 12月14日 環境省との意見交換会⑤
- 1月14日 IUCN-J 役員会
- 1月15日 NGO グループ・NBSAP 意見交換会合⑤
- 1月15日 NBSAP フォーラム企画会議①
- 1月28日 NBSAP フォーラム企画会議②
- 2月15日 SBSTTA24 事前情報交換会
- 2月19日 IUCN-J 運営委員会
- 2月24日 環境省との意見交換会⑥
- 3月24日 IUCN-J 総会

3. 外部委員会等への参加

■ UNDB-J への参画

委員会(6月24日、3月19日)、幹事会(3月3日)、運営部会(6月10日、11月27日)、UNDB-J 全国フォーラム (3月10日) 担当：道家哲平 (日本自然保護協会・IUCN-J 事務局長 以下肩書き略)

■ SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワークへの参画

総会 (11/13)、幹事会 (9/29) 担当：安藤よしの (ラムサールネットワーク日本)、名取洋司 (コンサベーションインターナショナルジャパン)

■ IUCN アジア地域委員会(7月29日、3月26日) 担当：渡邊綱男、名取洋司、安藤よしの、道家哲平

■ あいち生物多様性戦略推進委員会

4. 講演依頼等への対応

<講演等>

5月16日 UNU のイベントで講師対応 担当：道家哲平

5月23日 造園学会 担当：道家哲平

6月19日 UNDB 市民ネット名古屋環境大学イベント 担当：道家哲平

10月9日 UNDB 市民ネット名古屋環境大学イベント 担当：道家哲平

11月25日 なごや環境大学オンライン講師対応 担当：道家哲平

2月5日 生物多様性とSDGs多世代フォーラム基調講演 担当：道家哲平

<表彰制度委員依頼>

エシカルファッション関連の表彰委員参加（渡辺綱男）

<執筆>

経団連自然保護協会だより No.86 ポスト2020 枠組み最前線 パート1

5. 発信の強化・組織基盤の強化

2020年以降の体制検討については、会員総会等で検討を積み重ねている。

6. 主催・共催・後援・推薦事業

2020年度、IUCN-J 主催・共催・後援等を行った取り組みは表1の通り。

表1 主催・共催・後援事業

主催／共催等 事業			
No	日付	事業名	種別（主催／共催）
1	2020/9/29	自然保護コミュニケーションをアップデート	主催
2	2021/2/13	人と動物、生態系の健康はひとつ ワンヘルスシンポジウム ～ポストコロナ時代の感染症と生物多様性 保全～	共催
3	2021/2/20	COND×Sov Lanatir モーリシャスユース対談	協力
4	2021/03/11	生物多様性国家戦略を考えるフォーラム～自然共生社会の設計図作りに参加しよう～(NBSAP フォーラム) キックオフ	主催
5	2021/03/12	経済・社会活動を支える#自然資本～ビジネスがまもる地球の未来～(CI ジャパン運営 NBSAP フォーラム 分科会)	共催

6	2021/03/18	自然に配慮したライフスタイルへの転換 (COND 運営 NBSAP フォーラム分科会)	共催
7	2021/03/22	2030 年 「生きもの賑う農業」が主流化！ (ラムネット J 運営 NBSAP フォーラム分科会)	共催
8	2021/03/26	Nature For All ～すべての人に自然を～ (NACS-J 運営 NBSAP フォーラム分科会)	共催
9	2021/03/31	生態系が豊かに安定してゆくインフラへ ー土中環境 の重要性ー(UNDB 市民ネット運営 NBSAP フォーラム 分科会)	共催
後援/推薦事業			(主催)
1	2020/4～ 2020/7	湿地のグリーンウェイブ	ラムサー ル・ネッ トワー ク 日本
2	2021/03/13	日本自然保護大賞受賞記念シンポジウム(オンライン)	日本自然 保護協会